

令和3年度県立大師高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
校務外非行防止に繋がる 法令遵守意識の向上	公務員としての自覚を持ち、一人ひとりが県・学校という組織を代表している人間であるという自覚の向上を図る。	経験の浅い教員が多い中、必然的に職員相互の円滑なコミュニケーションがとられている。また、総括教諭をはじめベテラン教員が説明責任の重要性を意識させる言動をとっている。これらの点により職員一人ひとりが自律の意識を常にもち行動している。
体罰、不適切な指導の防止	教職員の情報共有を前提とし、生徒一人ひとりの特性や置かれた状況を的確に判断し、それに相応しい指導・支援を行う。	生徒支援委員会やケース会議を最低でも月1回は実施することで機会に応じた情報交換を密に行った。また、生徒に何らかの課題が生じた場合はメンバーを固定しない少人数のチームを組み、具体的な対応を検討した。
生徒に対するわいせつ、セクハラ行為の防止	社会通念と説明責任を十分にわきまえたうえで、自らの言動を振り返りながら相手の立場を常に意識した指導・支援を行う。	生徒の指導・支援を行う際に迅速な対応を行う一方で、総括教諭や管理職への報告が遅れるケースが散見された。この点はさらに徹底していく必要がある。また、生徒に対する言動についても、ともすると親近感を優先してしまう傾向がみられるので、より一層、自らの立場をわきまえた指導・支援に自覚をもって取組みたい。
職場におけるハラスメント行為の防止	社会状況が変化していく中で、従来の既成概念は通じなくなっている点を各自がしっかりと自覚したうえで、ハラスメント行為を許さない、見逃さない学校環境を整備する。	ハラスメント行為の未然防止に向けた情報提供やセルフチェックを機会に応じて実施した。若手教員を中心に風通しの良い職場環境づくりに努めた。
効果的なチェック体制に基づく業務執行体制の確保	無駄な作業を省くうえで、チェックが必要な項目は何か、どこをどのようにチェックしていけば良いのか等に留意した業務執行に組織的に取り組んでいく。	ポイントとなるチェック項目や方法について各担当部署が常に改善に努めた。様々な業務において、効果的かつ効率的なチェック項目を立て、それが確実に実施できるよう、さらにマニュアル等の精選を進めていく。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	文書管理や情報収集に係るルールを徹底し、どこまでであれば許容されるのかという視点からの未然防止を徹底する。	個人情報の管理について職員の自覚は年ごとに高まっている。その中で改めて文書等の管理に対する日常的な意識を心掛けていくことがより重要となっている。

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
会計事務等の適正執行	適切な私費徴収・執行事務を徹底する。	業務アシスタントやICT機器等を利用した迅速かつ効率的な業務運営は大きく進歩した。会計業務の仕組み・手順についてさらに理解を深める取組を進めていきたい。
入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱に係る事故防止	社会状況の推移により臨機応変な対応が求められるので、常にマニュアル・手順書等の確認を怠らずに作業に当たっていく。	入学者選抜、成績処理、進路関係業務において、教職員一人ひとりが自らに与えられた業務がどのように全体と関わっているのかを意識しながら業務にあたることのできた。
交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	交通法規の遵守の徹底を図る。	事例の紹介等により地道な啓発活動を行うとともに、特に、自家用自動車による通勤職員や公務に自家用自動車を利用する職員に対しては交通法規の順守を徹底させた。

○ 令和3年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和4年度に取り組むべき課題

昨今の社会情勢下において、経験の有無に拘らず迅速かつ適切な対応が引続き要求されている。今年度においては不祥事に係る重大事案は発生しなかった。しかし、改めて昨今の情勢に鑑みると、個々人の高いモラル意識やモチベーションにより強く焦点が当たっている。これを保つためには、孤立しない、悩まない、高ぶらない等の強い自己抑制力の涵養が重要である。これに対し全教職員が一体となって取り組んでいくとともに、管理職や総括教諭のみならず、職員相互の助言や指導・支援が事故・不祥事の未然防止に向けた地道な取組として不可欠である。

次年度以降も教育を取巻く状況が、働き方改革や新教育課程の導入をはじめとして大きな転換期にある。このような事態に直面しているとはいえ、常に根本にある原理・原則を疎かにせず、想像力と創造力を働かせ一つひとつの事態に対応できるよう学校経営を進めていく。